

名古屋大学

NUA
nagoya university
archives

大学文書資料室ニュース

Nagoya University Archives News 第35号 2018. 3

目次

Contents

「プロジェクトNU MIRAI」と大学文書資料室 (理事・事務局長／大学文書資料室長 上月正博) —	2
大学文書資料室の自校史教育 (室員 堀田慎一郎) —	3
平成28年度に大学文書資料室が受け入れた資料 —	4
ホームカミングデーで名大史資料展を行いました —	5
愛知大学記念館と東亜同文書院大学記念センター (愛知大学豊橋研究支援課長 田辺勝巳) —	6
資料室日誌 (抄) —	8
名大史をつむぐ資料を本室に! —	10



豊田講堂の正面をかたどった豊田講堂完成記念ブックエンド (1960年)

「プロジェクトNU MIRA I」 と大学文書資料室

理事・事務局長／大学文書資料室長 上月 正博

平成29(2017)年9月、名古屋大学(以下、本学)は、「プロジェクトNU MIRA I」を発表しました。これは、創立80周年(2019年)・豊田講堂及び名大祭60周年(2020年)、創基150周年(2021年)を記念する周年事業です。

「プロジェクトNU MIRA I」(以下、プロジェクト)は、その目的として、(1)名古屋大学ブランドの確立、(2)卒業生・在学生、教職員の名古屋大学への帰属意識の強化、(3)財政基盤の強化、を掲げています。また、これらの目的を達成するため、①「世界水準」の研究成果と人材育成を目指す事業、②多様な文化の理解、女性の活躍推進、自由闊達な学風の継承等、「ダイバーシティ」の尊重を目指す事業、③人類が直面する課題に「アジア」とともに挑む国際的な事業、を行うとしています。

大学文書資料室(以下、本室)は、目的においては主に(2)、事業においては主に②で、大きな役割を果たすことが期待されています。

すでに本室が中心となって実施することが決まっている事業として、「名古屋大学創立80周年記念史」(以下、80年史)の刊行があります。すでに総長を委員長とする80年史編纂委員会、本室室長を委員長とする80年史編集専門委員会を設置し、編集方針もほぼ決まりました。創基150周年の2021年に完成する予定です。

この80年史は、『名古屋大学五十年史』(既刊)と、創立100周年を記念して刊行されるであろう『名古屋大学百年史』の間に位置するものです。こうしたハー

ドカバーで頁数も頁あたりの字数も多い本格的な年史はもちろん必要ですが、読みやすいものとはいえません。そこでこの80年史では、体裁もソフトカバーの手

に取りやすいものとし、頁数や字数も抑え、写真や表をできるだけ多く入れるなどして、本学の関係者、また一般の方々にも広く読んでいただけるようにしたいと思います。

またプロジェクトでは、「未来に活かす博物館」が構想されています。これは、学外からの寄附金等により、現在の名古屋大学博物館をリニューアルし、「過去を活かす」・「次世代に活かす」・「地域を活かす」をコンセプトとする新しい博物館を創造しようというものです。

この新博物館において、大学文書資料室の貢献が最も期待されるのは「過去を活かす」の部分です。新博物館では、これまでの本学の高度で多様な研究を理解してもらうための展示が中心になりますが、名古屋大学の歴史をテーマとする展示も予定されており、多くの関係者、訪問者に、大学に親しみと関心を持っていただけるようなものにしていきたいと考えています。吉川教授、堀田室員を始め、資料室が一層活躍できるようにしてまいりたいと存じます。



資料室だより①

○大学文書資料室の自校史教育

近年の国立大学では、当該大学の学生としてのアイデンティティの確立、大学への帰属意識の涵養、それらを通じた学習意欲の向上などを目的として、自校の歴史や現況、理念や建学の精神などを講義で教える「自校教育」が一般化しつつあります。大川一毅氏（岩手大学）の10年前の調査によると、回答のあった62国立大学のうち、33大学が自校教育を実施していると回答しています。

名古屋大学（以下、本学）では、大学文書資料室（以下、本室）が自校教育、正確に言えば自校史教育を担っています。本室の歴史資料・大学史編纂部門には教員（兼任1、専任1）が置かれ、自校史教育をその重要なミッションの1つとしています。

本学は、全国に先駆けて自校史の講義を設けた大学の1つです。平成11（1999）年度には、本室が全学共通科目（主題科目・総合科目）として「日本の大学—近代日本と名古屋大学—」を開講しました。カリキュラム改革や講義内容の修正を経て、全学教育科目（全学教養科目）「名大の歴史をたどる」として現在に至っています（開講者は本室の兼任教員）。

当初は2年生を対象としていましたが、自校史教育は新入学生にこそ行うべきと考え、平成18（2006）年度からは1年生前期（春学期）の講義としました。また同年度から導入された大人数講義枠に指定され、200人が受講できるようになりました。実際に毎年、上限一杯の200人が受講します。

オリジナルのテキストとして、名大史ブックレットとコースパケット（資料集）があります。ブックレットはこれまで14冊を刊行し、講義以外でも好評を博しており、これをきっかけに他大学でもこうしたブックレットが刊行されるようになりました。コースパケットは、簡易製本の印刷物で、受講者のみに配布しています。昨年刊行した『歴代総長と名大史—名古屋大学80年への軌跡—』もテキストとして利用しています。

またこの講義では、平成16年度から、総長にこれからの本学について語っていただく回を設けており、平

大学文書資料室 室員 堀田 慎一郎

成29年度も松尾清一総長が講義を行いました。その模様は、オープンコースウェア「名大の授業」（NUOCW）でネット公開しています。



「名大の歴史をたどる」の講義風景（IB 電子情報館大講義室）

本室では、本学の職員に対しても自校史の講義を行っています。1つは4月初旬の新規採用職員研修における講義です。これは平成19年度から始まりました。「名大146年の歴史をたどる」（平成29年度）と題する50分の短い講義ですが、本学の沿革や人物、建築物や記念物などについて簡潔に解説しています。

また平成28年度からは、年に2回行われるパートタイム勤務職員研修でも講義を行うようになりました。こちらは45分で、「名古屋大学の歴史—3つの「なぜ」から名大を知る—」と題して、本学の歴史に関わる素朴かつ重要な問いに答える形で、本学の特徴を知ってもらおうという趣旨で話しています。

本学は昨年9月、創立80周年、創基150周年等の周年事業として、「プロジェクトNU MIRAI」を実施することを発表しました。注目されるのは、プロジェクトの3つの目的の1つとして、「卒業生・在学生、教職員の名古屋大学への帰属意識の強化」が挙げられていることです。このプロジェクトにおいて、自校史教育に取り組んできた本室の果たすべき役割は大きいと思います。また、自校史教育の対象を、卒業生や教員、ひいては地域社会の人々へも広げて行くことも必要になると考えています。

資料室だより②

○平成28年度に大学文書資料室が受け入れた資料

大学文書資料室（以下、本室）は、平成28(2016)年度において、特定歴史公文書等715点、歴史資料等1,243点、合わせて1,958点の資料を受け入れました。

特定歴史公文書等は、公文書管理法に基づき、主に名古屋大学(以下、本学)の組織から移管された法人文書です。平成27年度は430点でしたので、平成28年度はかなり増えています。これは、財務部、研究協力部、文系事務部、情報文化学部・情報科学研究科事務部からの移管点数が例年になく多かったためです。これらは、法人文書ファイル移管簿は提出されていたが実際の本室への移管作業が遅れていたもの、あるいは倉庫から見つかった、かなり前に保存期間が満了した古い法人文書を受け入れたものです。これらを除いた、平成27年度に保存期間が満了した法人文書の移管数はおおむね例年並みです。

歴史資料等とは、これも公文書管理法に基づき、特定歴史公文書等以外の歴史資料でしかるべき管理が義務づけられているものです。その多くは、名古屋大学が作成した刊行物・印刷物です。これは法的には法人文書と見なされませんが、内容的にはそれに準ずるものであり、歴史資料としてもきわめて重要です。本学では、こうした刊行物・印刷物は、図書館で永久的に保存されるものを除き、全て本室へ提供することが義務づけられています。そのほかには、書店や古書店から購入した本学の歴史に関する資料、同窓会・部・サークルなどの本学の関連団体からの寄贈資料などがあります。情報交換のため、他のアーカイブズや歴史資料館、博物館等からの寄贈資料は受け入れますが、それ以外の本学の歴史とは直接関係のない資料は受け入れないことを原則としています。

特定歴史公文書等

移管元（平成28年度末現在の名称）	点数
総務部	60
財務部	180
研究協力部	139
施設管理部	1
企画部	7
教育推進部	43
情報連携統括本部（情報推進部）	43
文系事務部	50
情報文化学部・情報科学研究科事務部	60
理学部・理学研究科・多元数理科学研究科事務部	14
医学部・医学系研究科事務部	41
工学部・工学研究科事務部	16
研究所事務部	26
附属図書館事務部	15
その他	1
学外（受贈）	19
合計	715

歴史資料等

提供・寄贈元	点数
名古屋大学（本部）	364
名古屋大学（部局）	490
名古屋大学関係団体等	48
アーカイブズ機関・博物館関係等	200
大学・研究機関等	17
個人	3
学外その他	5
書店・古書店（購入）	116
合計	1243

資料室だより③

○ホームカミングデイで名大史資料展を行いました

大学文書資料室（以下、本室）は、平成29（2017）年10月21日（土）に開催された第13回名古屋大学ホームカミングデイにおいて、企画展「名大史資料展 こんな史料ありませんか」を行い、約600名の来場者がありました。

これまでも本室は、ホームカミングデイで企画展を毎年実施して来ましたが、それらのいずれもが、特定のテーマを設定し、それに関連する歴史資料を選んで展示するというものでした。今回は、2021年に刊行が予定されている創立80周年記念史、ひいては将来の100年史編さんに向けて、本室が収集の課題としている歴史資料の分野や種類をいくつか選び、すでに本室が所蔵している同種・類似のものを展示して、さらなる寄贈や情報提供を呼びかけようという趣旨です。

展示ケースを4つ使いましたが、それぞれの展示ケースごとに、①周年や行事等の記念品、②国際交流・留学生関係資料、③学生生活関係資料、④その他の資料、という内容でまとめました。展示ケースの①から③については、それぞれの背後に関連する内容のパネル（『名大トピックス』で本室が連載している「ちょっと名大史」を拡大したもの）を配置しました。展示ケースの④は、来場者が最も見やすい位置に置き、平成20（2008）年にノーベル賞を受賞した益川敏英、小林誠両特別教授が名古屋大学理学部に在学・在職中に共に出席した、物理学教室会議（理学部物理学科の意思決定機関）の議事録を中央に配置しました。



企画展全景（豊田講堂ホワイエ）



展示を観覧する人々



展示ケース③の展示物

物理学教室会議議事録
(益川、小林両博士が揃って出席した回)

東海地区の大学アーカイブズ⑤

愛知大学記念館と東亜同文書院大学記念センター

東亜同文書院大学記念センター／愛知大学豊橋研究支援課 課長 田辺 勝巳

愛知大学記念館

愛知大学記念館は、豊橋市高師台にある愛知大学豊橋校舎にあり、築109年を数えます。日露戦争後に東海地方に増設された陸軍第15師団本部の指令部棟として、明治41（1908）年に建設されました。豊橋にはすでに18連隊が吉田城跡に置かれておりました。

豊橋に陸軍第15師団が誕生したのは、沼津、静岡、浜松、岐阜など東海地方の諸都市との誘致合戦の末で、豊橋高師原から更に南に太平洋岸まで広がる天白原の広大な台地が、満州に似た地形の演習地として好条件であったことによります。このとき人口4万人ほどの豊橋の町へ兵士だけで1万人、関係者など含め2万人が増えたため、既存の製糸業を抜いて文字どおり「軍都」にふさわしい町となりました。これにより、上下水道、道路拡張、発電事業、路面電車や郊外電車の開通などインフラ整備が進むとともに、町の近代化が一気に進みました。

陸軍第15師団の指令棟は、両翼を持つコの字型の約1,800平方メートルの木造2階建て、寄棟造の棧瓦葺で、豊橋で最初の洋風建築です。1階の上に2階が独立的に乗る神楽造りで、この工法により対地震や台風から100年以上も守られてきたといえます。英・独・仏・伊国風の様式や飾りが施されており、豊橋の大工や宮大工が全国を巡り勉強した汗の結晶といえます。

ところで、大正末期の世界軍縮でこの15師団は廃止されました。その後、陸軍教導学校、次いで陸軍士官学校が跡地を利用し、終戦に至りました。昭和20（1945）年6月、豊橋市街地のほとんどが空襲で焼失しましたが、この施設は市街地から離れており、難を免れました。戦後、この施設と5万坪の敷地を利用したのが昭和21（1946）年に開学した愛知大学です。

愛知大学は戦前、中国上海でグローバルなビジネススクールとして明治34（1901）年に開学し、終戦とともに45年間で閉校となった東亜同文書院（のち大学）の後継旧制大学として当時、吉田茂内閣総理大臣によって日本で49番目に許可され創立しました。旧制大学は天皇の裁可のうえ、当時の6大都市以外で初めてとなる旧制大学の認可で、書院生だけでなく80あまりの学校からの引き揚げ学生を収容しました。豊橋市も積極的に受け入れ、軍都から教育都市への転換を図ったのです。愛知大学の設立趣旨書には、敗戦直後にもかかわらず、「国際的教養と視野をもった人材の養成」

「地域社会への貢献」という国際都市上海での伝統が継承されています。

こうして第15師団の本部指令棟は愛知大学本館（本部事務棟）として生まれ変わり、多くの兵舎や建物は学生寮や講義棟、研究室に、練兵場はグラウンドに姿を変えました。また師団長官舎は愛知大学公館として教員の宿舎とともに学生との交流の場にも利用されました。平成8（1996）年までの50年間、愛知大学本館として活用された後、建物の価値が評価され、平成10（1998）年に文化庁により登録有形文化財に指定されています。これを機に「愛知大学記念館」と改められ、博物館相当施設として今に至ります。

大学史展示室「東亜同文書院の45年、愛知大学の70年」

明治34（1901）年中国上海に開学した愛知大学のルーツ校東亜同文書院（大学）の45年間と、昭和21（1946）年に開学し今に至る愛知大学の70年間を、史資料による大学史の変遷と、パネル説明による紹介をしています。

東亜同文書院は、日中間の経済交流を通じて両国の友好と発展を目指すという理念のもと、日中友好に寄与する人材の養成を主眼に開学しました。中国語、英語、貿易、商業科目を重視し、中国国内を主なフィールドワーク先とした「大調査旅行」をカリキュラムに配置しました。5期生から始まった大調査旅行は、2～6人が班を組み、希望地域にテーマを持って3ヶ月以上の徒歩旅行調査であり、中国国内から東南アジアへと広がりを見せ、40年間に約700コースを実施しました。その成果は、20世紀前半の近代中国を記録した貴重な報告書や日誌となっており、一部を展示しています。

敗戦による上海からの引揚げの際、東亜同文書院大学第3代（最後の）学長本間喜一（のち愛知大学の創立者、第2代・4代学長）の指示により、教員・学生がリュックに入れてひそかに持ち帰った書院の学籍簿・成績簿、中国側に接收されていた書院の華日辞典原稿カード（日中国交正常化前の1954年、日中友好協会をとおして返還され、1968年『中日大辞典』に結実し刊行）、ほか愛知大学設立以来の変遷がわかる多数の展示物を公開しています。

愛知大学設立者名誉学長本間喜一展示室

愛知大学創立者本間喜一の生涯にわたる関係資料・写真等コレクションを展示しています。

荒尾精、近衛家4代、根津一の書展示室

東亜同文書院の前身としての役割を果たした日清貿易研究所設立者の荒尾精、東亜同文書院設立者である初代東亜同文会会長の近衛篤磨（貴族院議長）、書院第5代院長であった近衛文磨（内閣総理大臣）、書院初代院長の根津一の書を展示しています。

山田良政・純三郎兄弟、孫文展示室

近代中国の革命家孫文に協力した東亜同文書院関係者の山田良政・純三郎兄弟に係る関係文献、なかでも孫文と関係者の直筆書、掛け軸、孫文の妻・宋慶齡のサイン入り写真、など多数を展示しています。東亜同文書院の前身校・南京同文書院の教員であった山田良政は、書院を辞職して孫文が指揮する「惠州起義」

(1900年)に参戦し戦死しましたが、弟の純三郎は東亜同文書院の教員を務めたのち、兄の遺志を継いで孫文の秘書役として活躍しました。純三郎の四男である山田順造氏（東亜同文書院出身）は父、伯父と孫文の深い関わりを明らかにするため、大量の写真や文献等を集められており、のち本学に寄贈されました。

東亜同文書院大学記念センター

平成5（1993）年、愛知大学とルーツ校東亜同文書院に関する研究を促進するために設立されました。

平成18（2006）年に「センターの情報公開と東亜同文書院をめぐる総合的研究の推進プロジェクト」、平成24（2012）年に「東亜同文書院を軸とした近代日中関係史の新たな構築」研究プロジェクトが、文部科学省より各5年間の競争的資金（補助金）に採択され、研究実績が評価されています。当センターは大学記念館の貴重な史資料を利用した東亜同文書院、愛知大学に係る研究と大学記念館の公開事業を担っています。



愛知大学記念館

大学史展示室「東亜同文書院の45年、愛知大学の70年」

- ・年表「東亜同文書院45年、愛知大学70年」
- ・東亜同文書院(大学)『学籍簿』『成績簿』
- ・荒尾精著『対清意見』『対清辨妄』
- ・根津一院長の書、ブロンズ像、フロックコート
- ・『華語萃編』など中国語教科書
- ・『大旅行記』『大陸紀行』など大旅行調査中の日誌
- ・『東亜同文書院調査報告書』
- ・上海丸（長崎～上海航海）模型
- ・愛知大学設立認可申請書と天皇の裁可印
- ・本間喜一(学長)の母への手紙（※愛知大学創設前）
- ・愛知大学創立1周年記念アルバム
- ・愛知大学生の授業ノート（※1950年前後）
- ・『中日大辞典』初版、増訂版、第3版と原稿カード



愛知大学設立者 名誉学長 本間喜一展示室



- ・名誉学長 本間喜一の家族写真と絵手紙
- ・本間喜一作成の判決文(草稿)
- ・アヘン戦争で活躍した林則徐の書(本間喜一愛用の掛軸)
- ・最高裁判所事務総長辞令
- ・最高裁判所事務総長退職時の挨拶状
- ・林毅陸初代愛知大学長からの書簡
- ・昭和天皇皇后両陛下下園遊会招待状

荒尾精、近衛家4代、根津一の書 展示室

- ① 荒尾精の書 【日清貿易研究所開設者】
- ② 近衛忠熙の書 ※近衛篤磨の祖父
- ③ 近衛篤磨の書 【第代貴族院議長、東亜同文会初代会長】
※近衛文磨の父
- ④ 近衛文磨の書 【第34・38・39代内閣総理大臣、東亜同文書院第5代院長、東亜同文会会長】
- ⑤ 近衛文隆の書 ※近衛文磨の長男
- ⑦ 根津一の書 【東亜同文書院初代・第3代院長】



山田良政・純三郎兄弟、孫文 展示室

- ・孫文秘書となった山田純三郎と孫文写真
- ・孫文と宋慶齡夫妻の写真
- ・孫文の書「天下為公」、「至誠如神」
- ・香港へたどりついた孫文と迎える同志写真
- ・孫文の右腕・陳其美の書「仁者寿」
- ・孫文の片腕・黃興の書「履忠蹈信」
- ・孫文の書「山田良政先生墓碑」
- ・山田純三郎への広東国民政府顧問の招聘状

中国の革命家・孫文に影響を受けた、東亜同文書院の前身校・南京同文書院の教員であった山田良政(兄)と、東亜同文書院の教員であった山田純三郎(弟)の兄弟は、孫文を支えた。三者の史資料コレクションを当展示室にて紹介している。



資料室日誌（抄） 平成29（2017）年2月～30（2018）年1月

- 2月2日 事務補佐員候補者（平成28年度定年退職予定者）面接（木下孝洋部門長、吉川卓治部門長、市川真康総務課長、堀田慎一郎室員）。
- 2月16日 事務補佐員候補者（一般公募）面接（木下部門長、吉川部門長、市川課長、堀田室員）。
- 2月21～28日 特定歴史歴史公文書等をくん蒸（業者のくん蒸車による）。
- 2月24日 大学文書資料室（以下、本室）室会議を開催（構成メンバー：磯谷桂介室長、木下部門長、吉川部門長、堀田室員、佐分さとみ室員、井田幹恵係長〔7月以降は大桑康史係長〕）（以後、4月19日、6月21日、7月18日、9月14日、10月18日、11月29日、12月18日、1月31日に開催）。
- 3月16日 愛知県公立大学法人の平田雅也理事・事務局局長が来室、本室についてヒアリング（対応：堀田室員）。
- 3月22日 研究協力部研究支援課（博物館）から法人文書移管。
- 3月29～30日 書架の資料落下防止バー等の設置工事（担当：佐分室員）。
- 3月31日 伊藤由美、大山僚介、木村美幸の各事務補佐員が退職。
『名古屋大学大学文書資料室ニュース』第34号、『名古屋大学大学文書資料室紀要』第26号、『歴代総長と名大史—名古屋大学80年への軌跡—』を刊行。
- 4月3日 蒲生英博、伊藤乃玄の両事務補佐員が着任。
- 4月4日 新規採用職員研修で堀田室員が名古屋大学の歴史について講義。
- 4月4～5日 研究協力部研究支援課（高等研究院）から法人文書移管。
- 4月5日 東岡達也事務補佐員が着任。
- 4月6日 加藤真生事務補佐員が着任。
- 4月11日 名古屋大学創立80周年記念史編集専門委員会（第1回）を開催（構成メンバー：磯谷委員長、吉川副委員長、羽賀祥二委員、伊藤彰浩委員、辻篤子委員、堀田委員）。
- 4月11日 全学教育科目（全学教養科目）「名大の歴史をたどる」を開講（春学期）。
- 4月19日 名古屋大学創立80周年記念史編集専門委員会作業ワーキンググループ（以下、80年史WG）を開催（吉川副委員長、堀田委員）。
- 5月17日 伊藤事務補佐員が国立公文書館の「公文書管理研修Ⅰ」を受講（東京）。
- 5月18日 宇宙地球環境研究所第二図書室から、旧（大気）水圏科学研究所・旧地球水循環研究センター関係資料を移管。
- 5月25日 蒲生事務補佐員が国立公文書館の「公文書管理研修Ⅰ」を受講（東京）。
- 6月8～9日 全国公文書館長会議及び関連行事に堀田室員が出席（東京）。
- 6月9日 環境学研究科事務部から法人文書移管。
- 6月12日 80年史WGを開催（吉川副委員長、堀田委員）。
- 6月20日 全学教育科目「名大の歴史をたどる」で松尾清一総長が講義。
- 6月20日 企画部企画課から法人文書移管。
- 7月1日 大桑康史係長（総務部総務課文書法規係、8月から総務部総務課内部統制推進室法規係）が着任。
- 7月1日～9月3日 本室が協力した、登山家石岡繁雄生誕100年記念企画展「氷壁を越えて—石岡の安全学から山岳遭難防止へ—」が開催される（上高地、来場者7,353名）。
- 7月3日 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科事務部から法人文書移管。
- 7月5日・10日 情報推進部情報推進課から法人文書移管。
- 7月10日 附属図書館情報システム課、文系事務部経理課から法人文書移管。
- 7月13日 80年史WGを開催（吉川副委員長、羽賀委員、伊藤委員、堀田委員、オブザーバーとして齋藤芳子助教）。
- 7月14日 総務部広報渉外課、監査室から法人文書移管。
- 7月18日 「平成28年度に作成された印刷物の提供について」の依頼を全学に通知（担当：佐分室員）。

- 7月24日 役員懇談会で、名古屋大学創立80周年記念史の編集方針、及び編集専門委員会委員に隠岐さや香教授、齋藤芳子助教を追加することが承認される。
- 7月31日 教育推進部教育企画課教養教育院事務室から法人文書移管。
- 8月3日 6月20日の総長講義の映像を「名大の授業」(NUOCW)で公開。
- 8月14日・15日 全学一斉休業日のため閉室。
- 8月24日 研究協力部社会連携課及び知財・技術移転グループと特許関係文書の取り扱いについて打ち合わせ(担当:堀田室員)。
- 8月30日 柴田義守氏から柴田邵平資料を追加受贈。教育推進部学生支援課から法人文書移管。
- 9月5日 医学部・医学系研究科総務課から法人文書移管。
- 9月6日 江上不二夫資料の目録データ(約4,500点)をオンライン検索システムにアップロード(担当:蒲生事務補佐員)。
千種生涯学習センターの講座「〈なごや学〉産業・技術の歴史からまちを見る」における現地学習で、堀田室員が名古屋大学の歴史について解説。
- 9月8日 研究協力部社会連携課・研究支援課、学術研究・産学官連携推進本部知財・技術移転グループから法人文書移管。
- 9月12日 附属図書館情報管理課から法人文書移管。
- 9月13日 ホームカミングデイ実行委員会(第3回)に堀田室員が出席。
- 9月25日 80年史WGを開催(吉川副委員長・伊藤委員、齋藤委員、堀田委員)。
- 9月27日 文系事務部総務課から法人文書移管。
- 10月2日 全学教育科目(全学教養科目)「アーカイブズ学入門—文書史料の世界をあるく—」を開講(秋学期)。
- 10月11日 名桜大学大城渡准教授が来室、本室を視察・ヒアリング(対応:堀田室員)
- 10月11日 パートタイム勤務職員研修で、堀田室員が名古屋大学の歴史について講義。
- 10月12日 全国大学史資料協議会全国研究会で堀田室員が報告(豊橋)。
- 10月20日 ホームカミングデイ企画展の設営作業(堀田室員、伊藤事務補佐員)。
- 10月21日 ホームカミングデイで名大史資料展「こんな史料ありませんか」を開催(堀田室員、佐分室員)。
- 10月25日 名古屋大学創立80周年記念史編集専門委員会(第2回)を開催(構成メンバーに、隠岐委員、齋藤委員を追加)。
- 11月1日 工学部・工学研究科総務課から法人文書移管。
- 11月8日 ホームカミングデイ実行委員会(第4回)に堀田室員が出席。
- 11月16日 研究所事務部から法人文書移管。
- 11月17日 情報公開・個人情報保護及び法人文書管理に関する教育研修会に、佐分室員、堀田室員が出席。
- 11月24日 教育推進部入試課から法人文書移管。
- 11月30日 総務部職員課から法人文書移管。
- 12月1日 高等研究院創設15周年記念式典に、堀田室員と伊藤事務補佐員が出席。
- 12月7日 総務部総務課から法人文書移管。
- 12月14日 パートタイム勤務職員研修で、堀田室員が名古屋大学の歴史について講義。
- 12月27日 プロジェクト NU MIRAI「未来に活かす博物館」TF会議に堀田室員が出席。
- 1月15日 磯谷室長(理事・事務局長)が退任。
- 1月16日 上月正博室長(理事・事務局長)が着任。
- 1月29日 医学部・医学系研究科経営企画課から法人文書移管。

名古屋大学の卒業生、現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を本室に！

その他、ご処分予定の資料についても、まずはご一報ください

- ◎在学時の配布物
(学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…)
- ◎教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料
(各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事…)
- ◎校費による印刷物・刊行物
(冊子、パンフレット、ポスター…)
- ◎ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集…
など

※ご寄贈資料は、名古屋大学大学文書資料室利用等規程などに基づいて、大切に保存・管理・活用させていただきます。とりわけ資料の公開につきましては、寄贈者の意向を優先しつつ、深甚の配慮をいたします。

【連絡先】 名古屋大学大学文書資料室
(下記参照)

名古屋大学大学文書資料室ニュース 第35号
Nagoya University Archives News No. 35

名古屋大学大学文書資料室
室長 上月 正 博 (理事・事務局長)
部長 吉 川 卓 治
(歴史資料・大学史編纂部門、
教育発達科学研究科教授)
部長 木 下 孝 洋
(歴史公文書部門、総務部長)
室員 堀 田 慎一郎 (特任助教・専任)
室員 佐 分 さとみ
係長 大 桑 康 史
(総務部総務課内部統制推進室法規係)
事務員 河 合 成 典
蒲 生 英 博
伊 藤 乃 玄

発行日 2018年3月31日
編集
発行 名古屋大学大学文書資料室
名古屋市中種区不老町〒464-8601
電話：(052) 789-2046
FAX：(052) 788-6222
E-mail: nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp
印刷 株式会社荒川印刷
名古屋市中区千代田2-16-38